

導入事例

新たな企業価値創造のための戦略拠点に法人向けブラビアを導入



株式会社イセトー 様

百年以上に渡って「紙」を中心としたビジネスを展開してきた同社が、「デジタルメディア」への移行を推進する中、「プロジェクトセンター」を設立。そこに法人向けブラビアが導入された背景と理由、そして狙いを、エンジニアのポテンシャルを引き出すための環境作りに取り組まれているエンパワードソリューション本部 大塚 啓史本部長に伺いました。

■導入の目的

1. 映像や音楽を通してコミュニケーションを活性化したい
2. 大画面を共有して意見交換しながらコラボレーションしたい
3. 新しい働き方、企業文化を生み出したい

■法人向けブラビアで実現！

1. 外光の映り込みを抑えた見やすい表示で長時間作業でも疲れにくく
2. 大画面にたくさんの資料を表示でき、作業効率がアップ
3. 主張しすぎないデザインで空間作りにも貢献

「紙」から「デジタル」へと変容するイセトーのビジネス

— まずはイセトー様の事業内容についてお聞かせください。

大塚氏：株式会社イセトーは幕末の1855年（安政2年）に京都で和洋紙の卸として創業。その後、1920年代には電線を保護する絶縁紙（電線巻取紙）を、1950年代には国産初のコンピューター用ビジネスフォーム（連続用紙）をと、その時代ごとの「紙」にまつわるビジネスを行ってきました。そして1990年代後半から現在は、主に金融機関や公共団体が顧客や市民に郵送する通知状の作成アウトソーシングを主軸に、パーソナライズド動画やスマートフォンでの手続きといった、デジタルソリューションに注力しています。

そうした中、私たちは今年（2023年）10月、企画や営業、デザイナー、エンジニア、製造など、ソリューション開発の上流から下流までのすべてのメンバーがプロジェクトごとに集える場所として「プロジェクトセンター」を神奈川県相模原市緑区橋本にオープンしました。実際に顔を突き合わせながら意見を交わし、知識やノウハウを共有することで、新たなソリューション、そして新たな企業文化を生み出すことが目的です。今回、そのプロジェクトセンターに法人向けブラビア「BZ40L」を4台導入しました。



株式会社イセトー
執行役員 ソリューション統括本部
エンパワードソリューション本部本部長：大塚啓史氏

映像を通じてコミュニケーションを誘発・加速

— プロジェクトセンターでは、法人向けブラビアを具体的にどのようにお使いになられているのでしょうか？

大塚氏：プロジェクトセンターは、その目的の実現のために「自然と人が集まりたくなるコミュニケーションの場」であることと、「地域に根差し、地域に開かれた場」であることをキーワードに空間作りを行いました。めざしたのは、新しい働き方を生み出すこと。テレワークや従来型のオフィスでは切り捨てられがちな対面のコミュニケーションや、一見プロジェクトには関係なさそうな話題、飲み物を取りに行くときに自然と顔をあわせるといったコミュニケーションを誘発していくことが狙いでした。

大塚氏：そのため、入ってすぐにある、カフェのような開放的なスペース「わいわいゾーン」では、これまでになかった価値を創造する空間として、その名の通り「わいわい」と声を出してコミュニケーションを楽しんでもらえることをめざしました。この「わいわいゾーン」には、2台の法人向けブラビアを設置しています。まずカフェカウンターの上に設置された大きな65V型の「BZ40L」は、カウンターに座った人たちがPC画面を投影して議論したり、学生も含めた外部のかたを招いたイベント時などにイメージビデオや音楽を流したり、あるいはスポーツ中継を映して皆で盛り上がりがあったりといった用途を考えています。

そしてもう1台、55V型の「BZ40L」はキャスターを付けて、室内の好きな場所に移動させて使えるようにしました。こちらはカフェコーナーでのワークやセミナー、学習会などに利用する想定です。

そのほか、「地域につながる」の思いを込めて相模原の市の木「けやき」と市の花「あじさい」の名前を付けた2つの会議室にも1台ずつ55V型の「BZ40L」を設置しています。ビデオ会議を中心に、打ち合わせや研修など多目的に使ってもらうことを想定しています。



「BZ40L」シリーズの映り込みの少なさに満足

—— 貴社が業務用ディスプレイに求める性能・機能とはどんなものなのでしょうか？

大塚氏：プロジェクトセンターは外の光を多く取り込むような設計になっており、会議室すらガラス張りです。そのため設計段階からディスプレイへの外光の映り込みが懸念されました。そうした中、映り込みを抑える「ディープブラック・ノングレアコーティング」を施した「BZ40L」が登場したということで、『これだ！』と導入を決めました。期待通りの映り込みの少なさで快適に利用できています。外光はもちろん、画面目前にあるスポットライトの映り込みもほとんど気にならないというのが素晴らしいですね。



法人向けブラビアで今後のコミュニケーション活性化に期待

—— プロジェクトセンターが開設されてから約1か月が経過しました（取材時点）。現時点での法人向けブラビアの導入成果、そして今後の期待をお聞かせください。

大塚氏：「BZ40L」の映り込みの少なさと映像美のおかげで、長時間の作業でも疲れにくいことが最初の成果だと感じています。特に、表示されたコードを凝視せねばならないコードレビューや、先輩エンジニアが後輩に指導しながら開発を進めるペアプログラミングにおいて、エンジニアから見えにくいとか使いづらいといった声もありませんし、狙っていた社員同士のコミュニケーションの誘発と新しい働き方に向けて、法人向けブラビアは寄与し始めて来ています。

—— 最後に今回の法人向けブラビア導入を振り返って、印象に残っていることがありましたらぜひお聞かせください。業務用ディスプレイの刷新を検討中の法人のお客さまの気付きになるようなお話を聞かせていただければ。

大塚氏：法人向けブラビア導入は施工会社様経由ではなく、直接私たちがソニーに問い合わせたのですが、メールでの相談、見積もり手続き、納品制限のあるビルへの搬入手続き上の資料作成、設置場所への搬入まで、丁寧にサポートいただきとても助かりました。

こういったものは購入して終わりではありません。今後、長い期間かけての故障対応やメンテナンスしていく必要があります。しかし、ソニーであれば、機材の品質やサポート面でも安心できると考えました。決して安い買い物ではありませんから、信頼できるメーカーを選ぶようにすべきでしょう。

法人向けブラビアについて 詳しくは、当社 Web (sony.jp/bravia-biz/) へ

ご購入に関する相談は
法人のお客様向け購入相談デスク

 0120-30-1260

- 携帯電話・一部のIP電話などご利用になれない場合がございます。
- 受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日 休み）

ソニーマーケティング株式会社

商品情報や仕様のお問い合わせは
ブラビア法人様向け相談窓口

 0120-67-6699

- 携帯電話・一部のIP電話などご利用になれない場合。050-3754-9774
- 受付時間 9:00～18:00（土・日・祝日 休み）

お問い合わせ

2023年11月現在